

2022（令和4）年度

消防本部（消防署）のあり方に関する市民アンケート

結果報告書

2023（令和5）年5月

伊賀市消防本部

調査の概要

1. 調査の背景・目的

消防・救急業務は市町村が担っていますが、人口減少社会が進展し、財政状況も厳しくなる中、伊賀市のような規模の消防本部（消防署）では、大規模化する災害等への対応や専門職員の養成・確保などには限界があります。

将来にわたって市民の皆さまに消防行政サービスを提供していくため、伊賀市では令和2年に『消防本部組織再編計画』を策定し、消防本部（消防署）のあり方について、総合的かつ長期的なビジョンで検討を進めているところです。

『消防本部組織再編計画』は、現在、令和2～6年度の「第1期実行計画」期間中ですが、令和7年度から5年間の「第2期実行計画」を策定するにあたり、市民の皆さまのご意見も伺ったうえで、計画の方向性を決定するための参考とするため実施したものです。

2. 調査対象

- (1) 伊賀市 e モニター登録者の方・・・390 人
- (2) 市内在住の 18 歳以上（令和 4 年 9 月末現在）の方・・・2,500 人（無作為抽出）
- (3) 伊賀市ホームページの閲覧者
- (4) その他（市職員等）

3. 調査期間

2023（令和 5）年 1 月 13 日（金）～2 月 12 日（日）

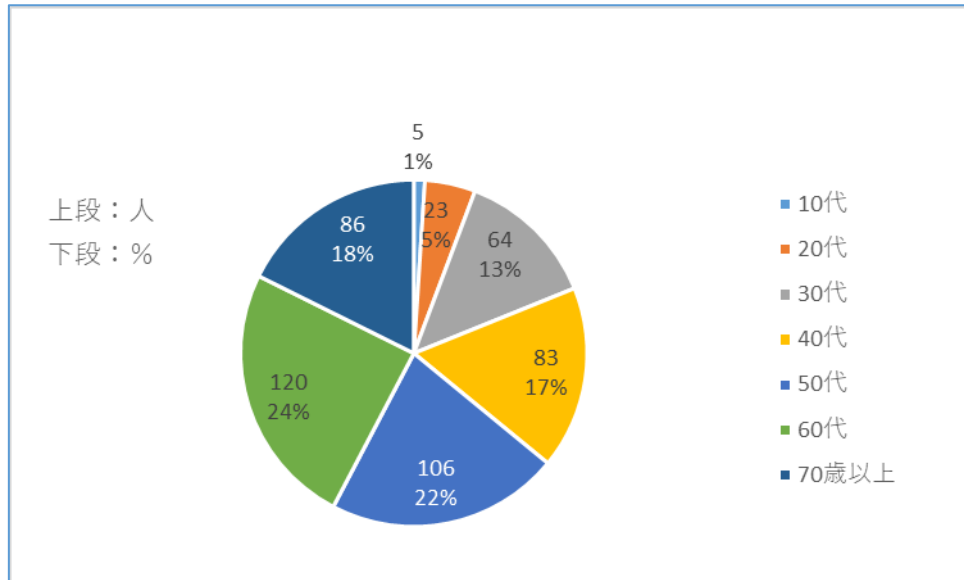
4. 回収率・回答率

属性	人数（人）	割合（％）	回答率（％）
(1) e モニターに登録している	97	19.9	3.4
(2) ハガキが届いた（無作為抽出者）	341	70.0	11.8
(3) ホームページを見た	36	7.4	1.2
(4) その他	13	2.7	0.4
合計	487	—	16.8

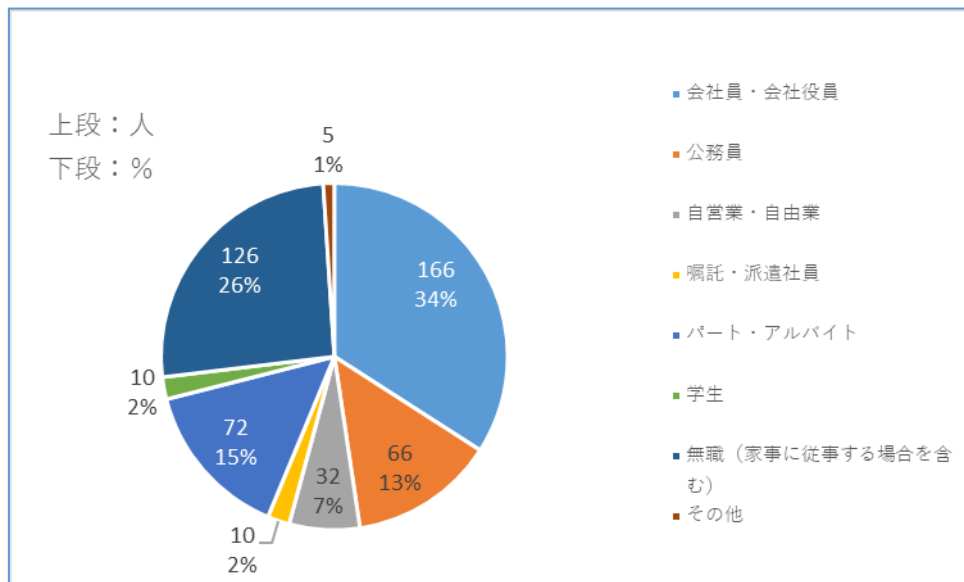
調査結果

I. あなた自身のことについて

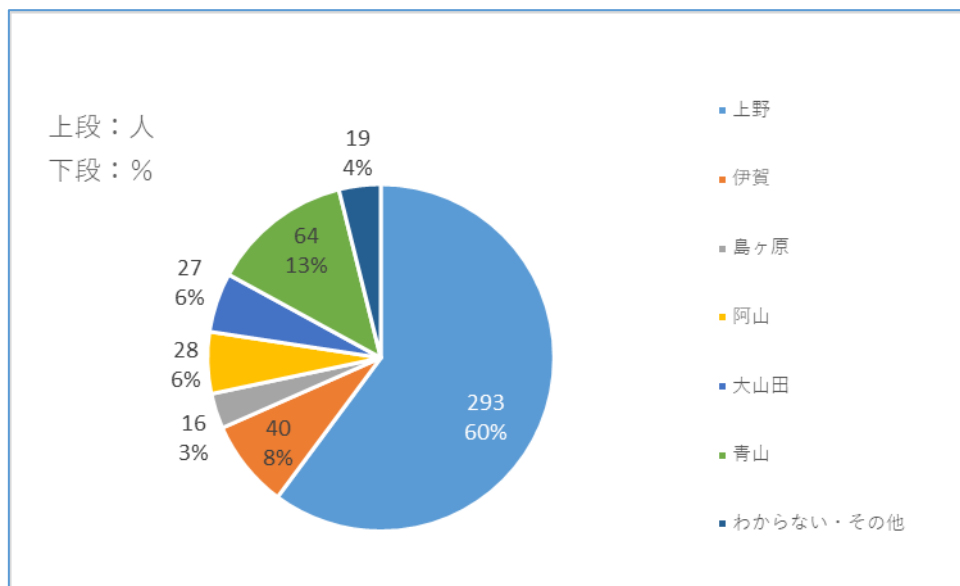
問1 年齢



問2 職業（複数の場合は主なもの1つ選択）



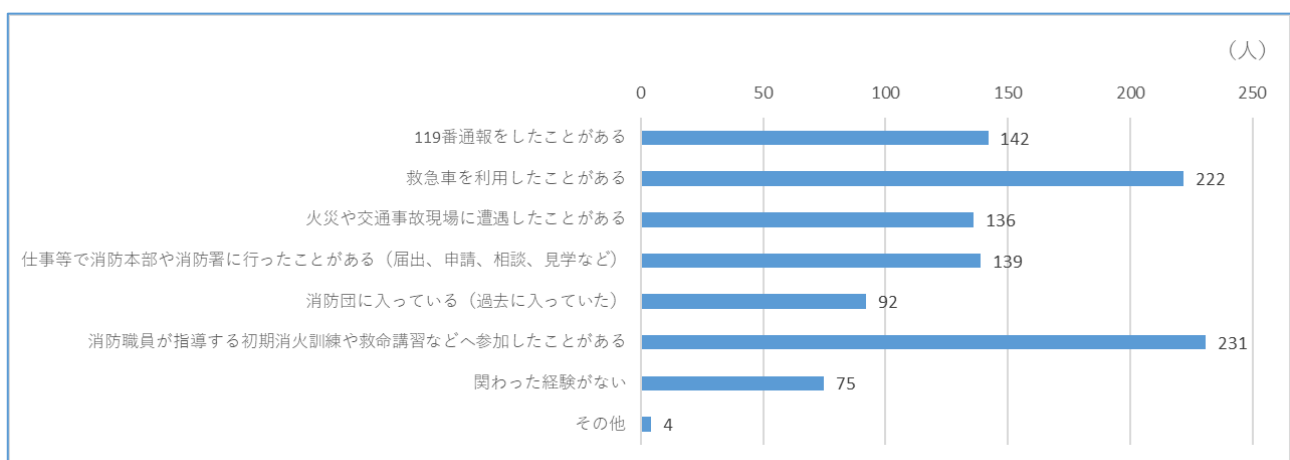
問3 居住地（住民自治協議会の区域）



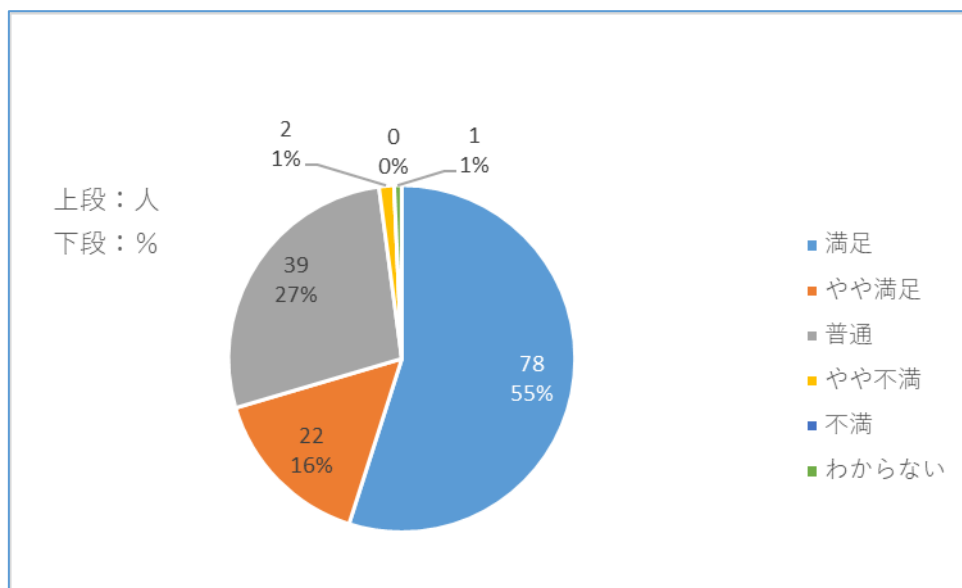
Ⅱ. 消防本部（消防署）に対する満足度等について

問4 消防との関わりと満足度について

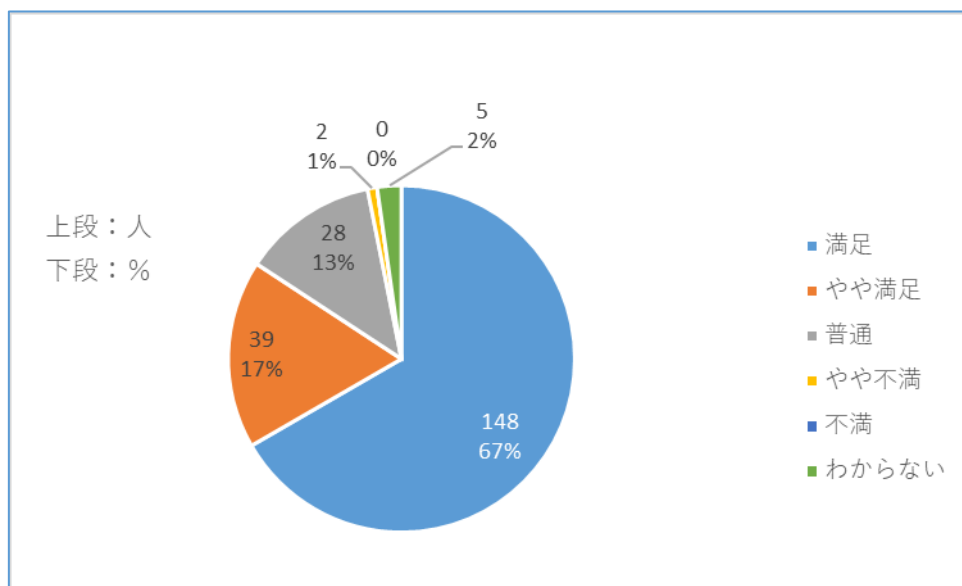
あなたはこれまでに消防と関わった経験がありますか？次にあてはまるものをすべて選んでください。（複数回答）



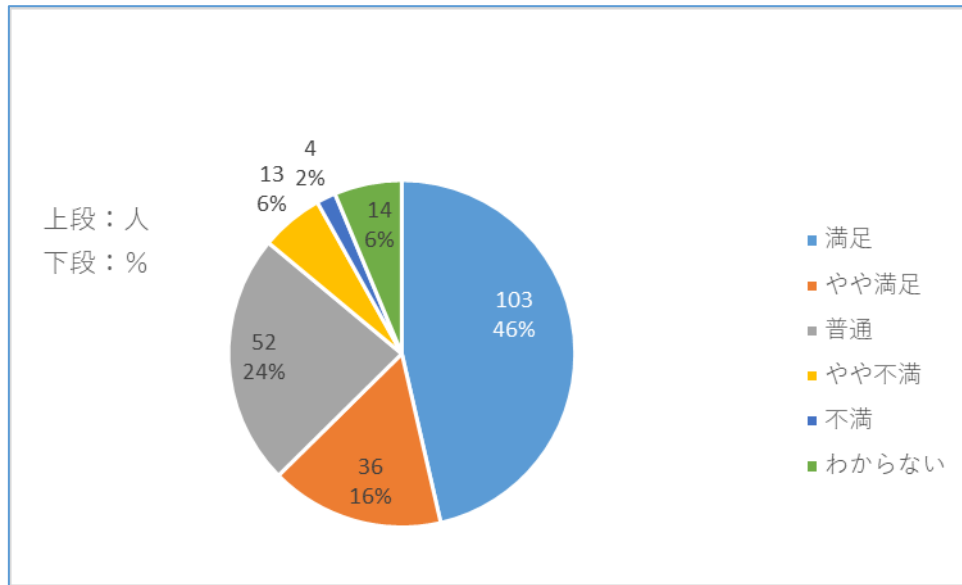
問4-1 問4で「① 119番通報をしたことがある」と答えた方にお聞きします。
 119番通報したときの消防職員（通信指令課員）の電話対応はいかがでしたか？



問4-2 問4で「② 救急車を利用したことがある」と答えた方にお聞きします。
 救急車を利用したときの消防職員（救急隊員）の現場対応はいかがでしたか？

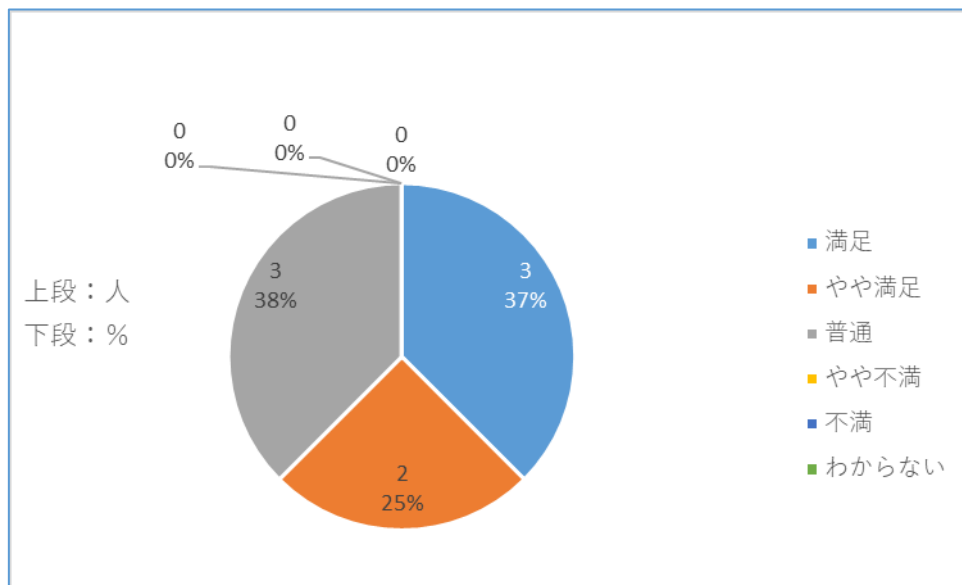


問4-3 問4で「② 救急車を利用したことがある」と答えた方にお聞きします。
救急車が到着するまでの時間はいかがでしたか？



問4-4 問4で「③ 火災や交通事故現場に遭遇したことがある」と答えた方にお聞きします。

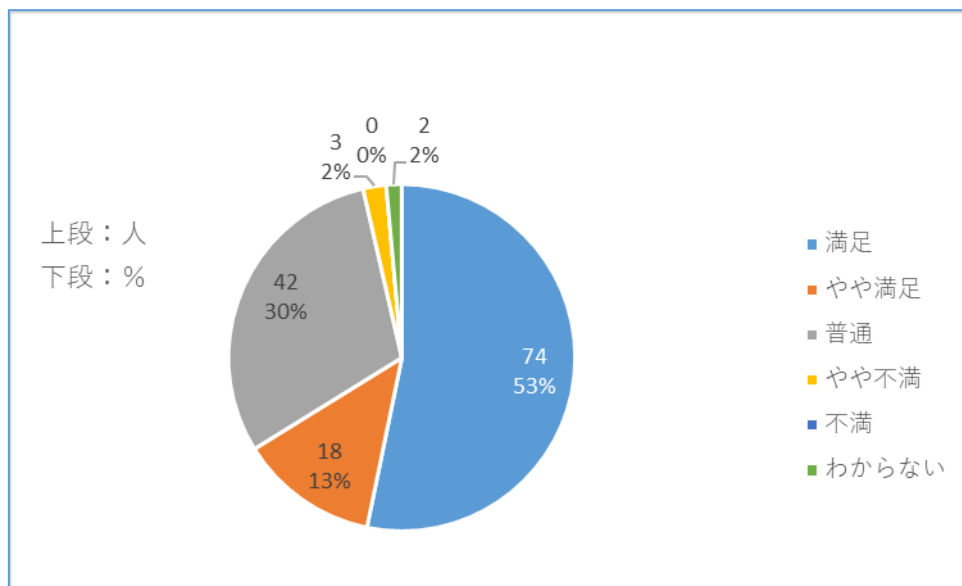
消防隊員や救助隊員の現場対応はいかがでしたか？



※本設問はシステムの不具合により、回答できない状態であったため、不正確なデータとなっています。

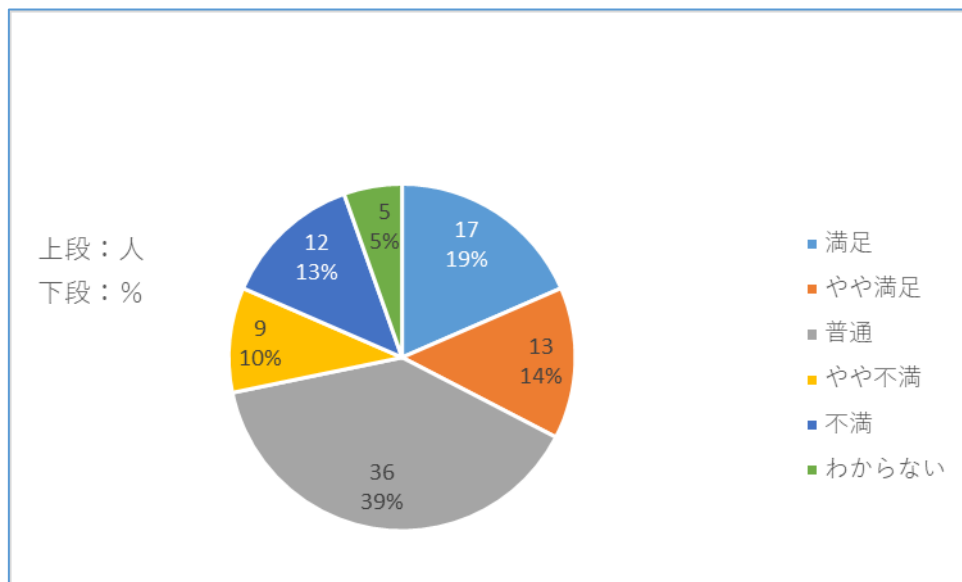
問4-5 問4で「④ 仕事等で消防本部や消防署に行ったことがある（届出、申請、相談、見学など）」と答えた方にお聞きします。

消防本部（消防署）へ来ていただいた時の、消防職員の対応はいかがでしたか？



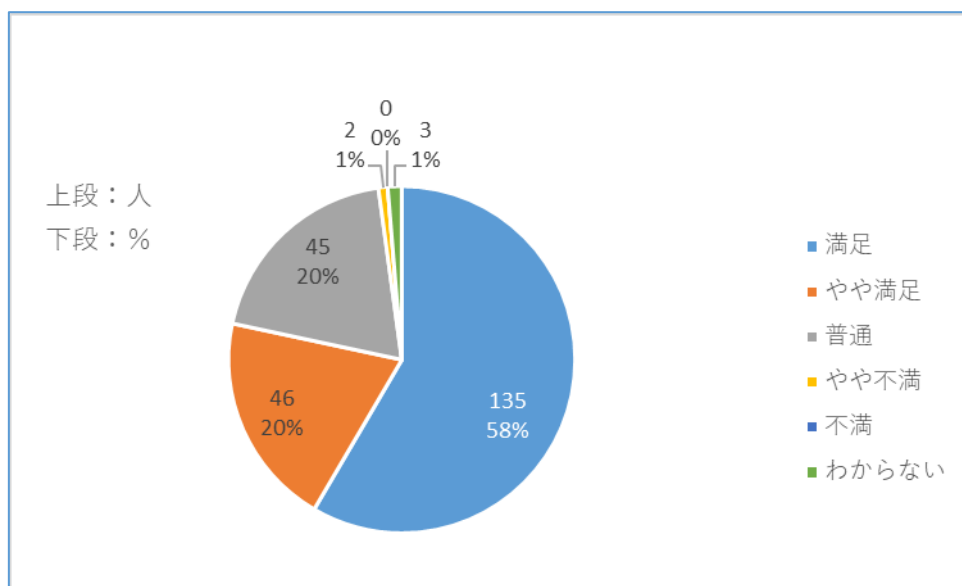
問4-6 問4で「⑤ 消防団に入っている（過去に入っていた）」と答えた方にお聞きします。

消防団と消防本部（消防署）の連携について、日頃どのように感じていますか？



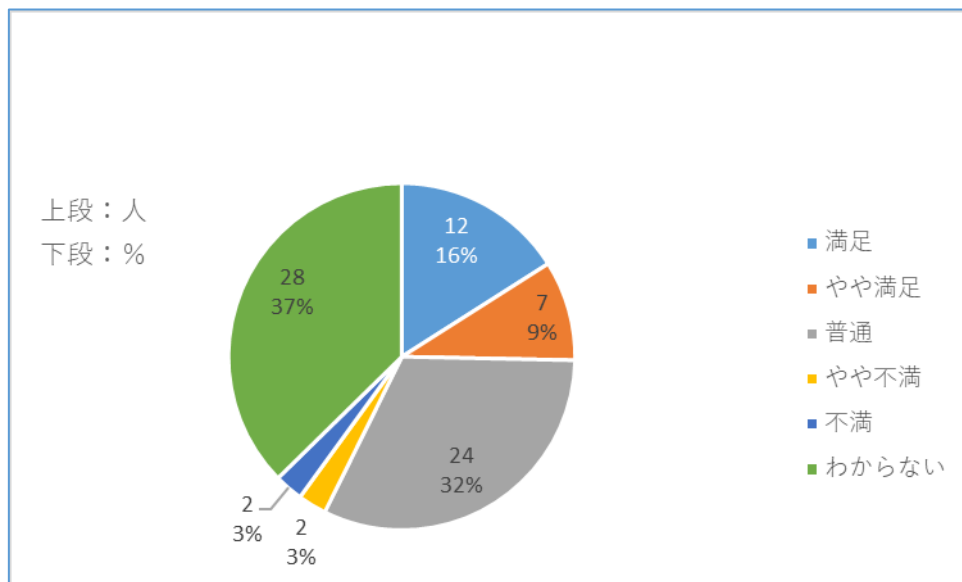
問4-7 問4で「⑥ 消防職員が指導する初期消火訓練や救命講習などへ参加したことがある」と答えた方にお聞きします。

訓練や講習のときの消防職員（救急隊員）の対応はいかがでしたか？



問4-8 問4で「⑦ 関わった経験がない」と答えた方にお聞きします。

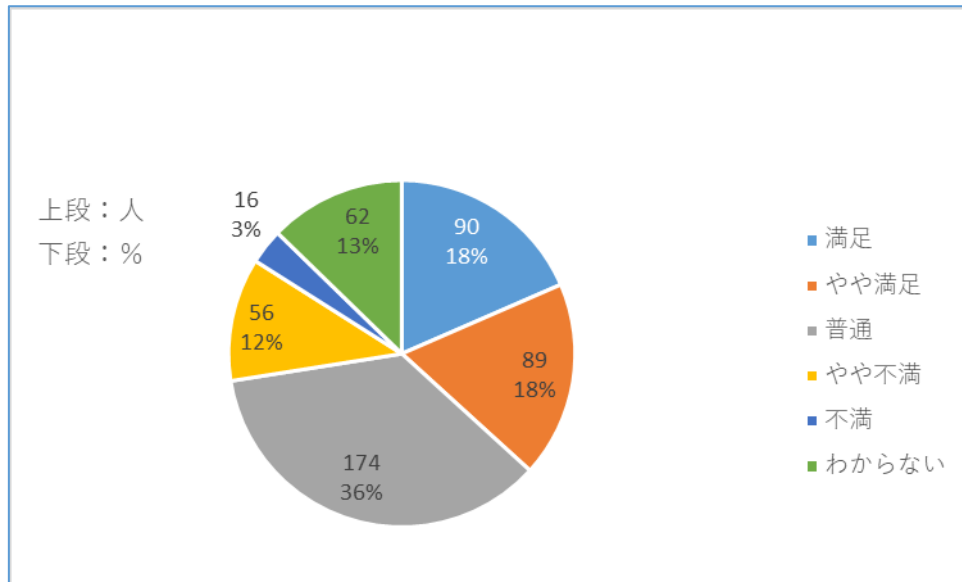
伊賀市の消防本部（消防署）の組織・体制や業務について、日頃どのように感じていますか？



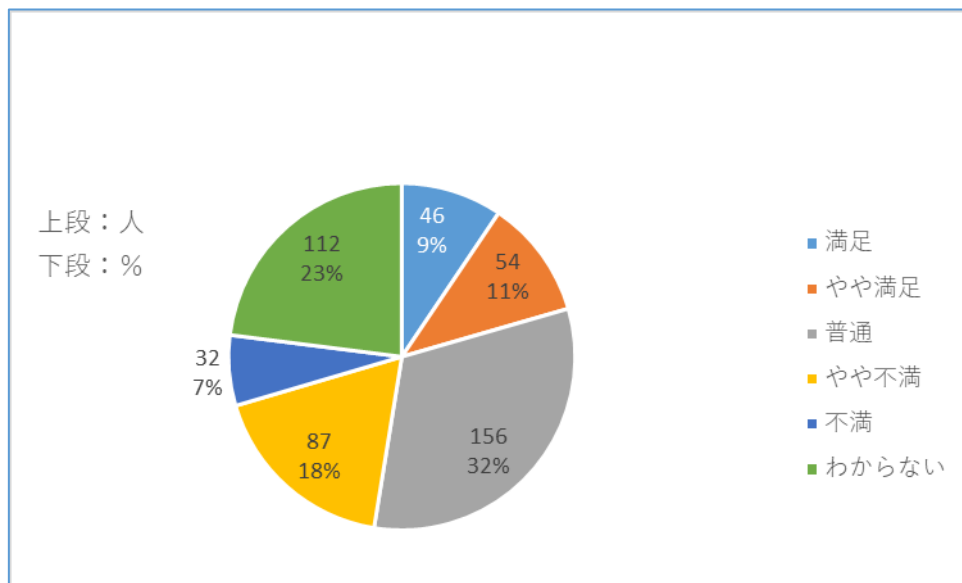
問5 消防本部（消防署）の充実度について

伊賀市消防本部（消防署）の現状や他団体との比較を踏まえ、現在の伊賀市消防本部（消防署）の充実度について、あなたの考えをお聞かせください。

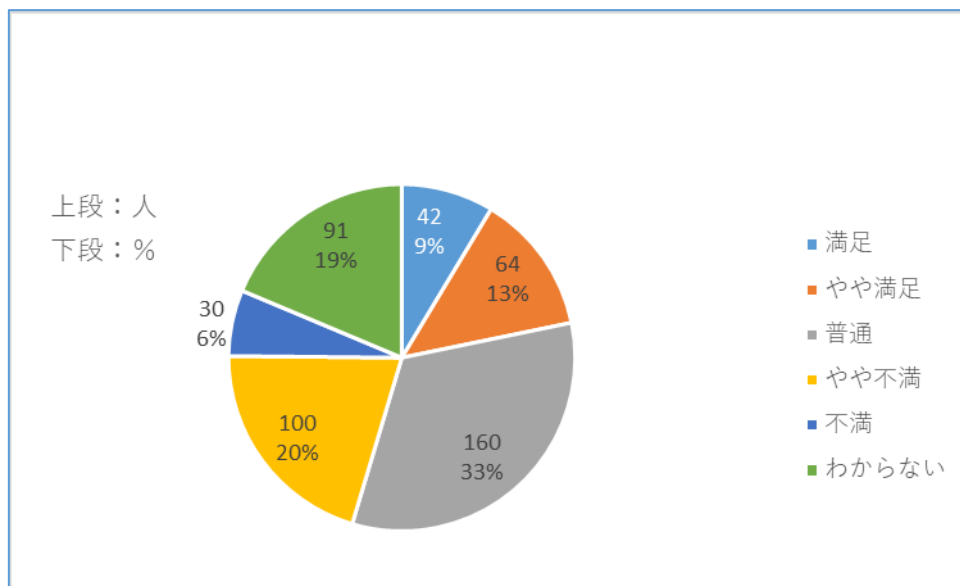
【消防署・分署の数】



【消防職員の数】



【消防車や救急車などの数】

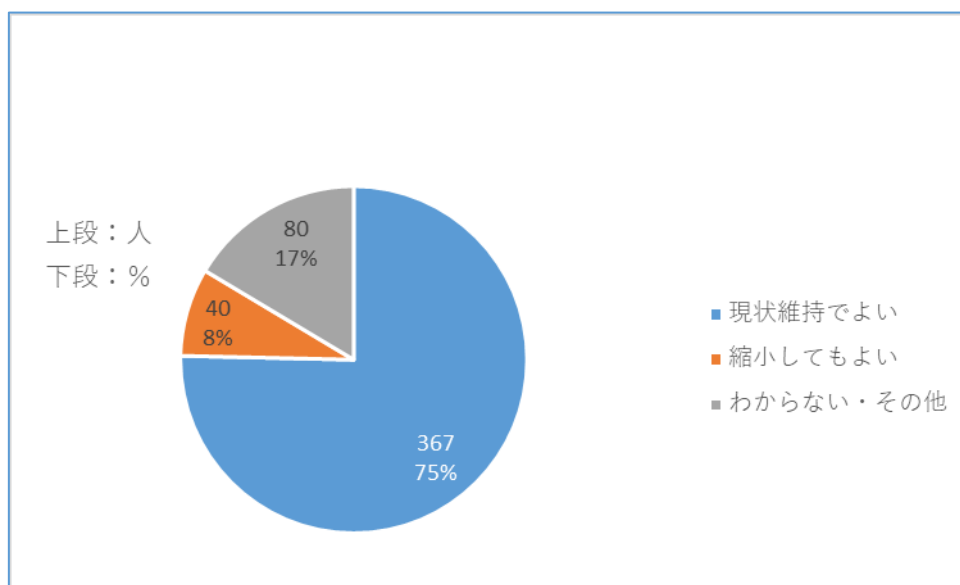


Ⅲ. 消防本部（消防署）の今後のあり方について

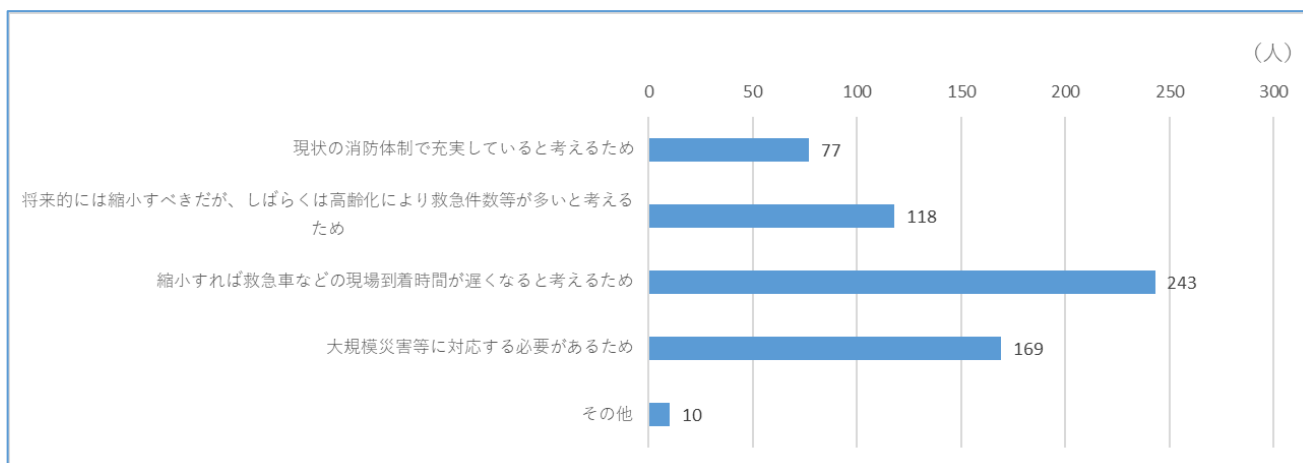
あなたが望ましいと考える伊賀市消防本部（消防署）の組織規模等についてお答えください。

問6 消防本部（消防署）の組織・規模

これからの伊賀市消防本部（消防署）の組織・規模について、あなたのご意見をお聞かせください。また、それぞれの選択肢の関連質問にもお答えください。



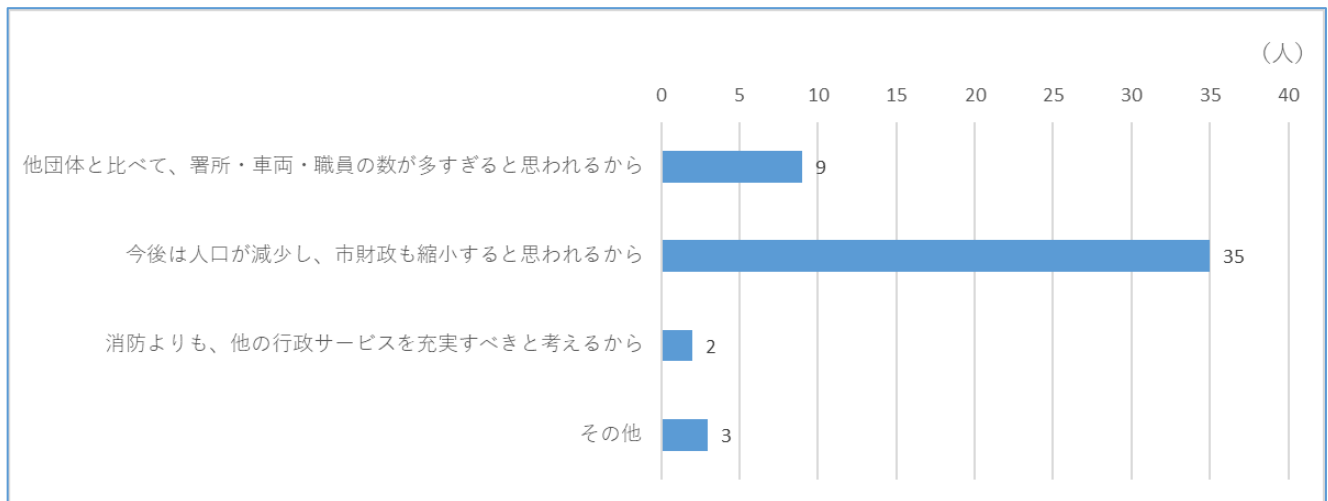
問6-1 【理由】（問6で「現状維持でよい」と答えた方）（複数回答）



【その他】

- ・人口減少により予算、職員数の減少は避けられないが、いきなり減らすことはプロフェッショナルが育たないので考慮すべき。
- ・空き家火災、林野火災を考えると人口とは関係なく、面積で考慮すべき。
- ・ギリギリで回すことで、人的に余裕がないと、普段でも緊急時でもしっかりと対応ができないと思う。少し暇ぐらいでちょうどいい。
- ・人命は人数の大小に関係ない。救急体制は最終段階でも維持すべき事項と思う。こうする事ことが人口縮小に歯止めをかける。
- ・施設のみ集約し職員数、車両数など（特に救急車）は維持すべきだと思う。
- ・伊賀市の救急医療は輪番制で病院が遠くなったりする。現状維持では高齢化が進む中困ることが多くなると思う。
- ・人口は減っていく傾向にあるのは資料を観て感じました。ですが、日中救急や消防が出動してる様は頻繁だと感じてます。しかも、増加傾向にあるとも感じています。ですので、縮小より現状維持または増やす事をしなくてはと心配します。
- ・感染症が多発したとき対応出来てないから。
- ・人口比率ではなく面積比率で考えるべき。都会と田舎では家の大きさが違う。火事は家だけではない。

問6-2 【理由】（問6で「縮小してもよい」と答えた方）（複数回答）



【その他】

- ・車両が増えれば良いと感じる。
- ・火事の件数が少ない。
- ・消防の広域化を進め人員や車両、施設を整備し、高齢化及び人口減少化に対応が必要になって来たのではないか。

問6-3 【理由】（問6で「わからない・その他」と答えた方） ※主なもののみ掲載

- ・①現場までの到着時間について。例えば10分以内に到着します、と市民との契約（目標、努力目標、概ね、など）があると、それに対して、人員、車両を含めての資機材の充足度を評価できるが出来る。従って、到着時間を示された上での充足度を問うべきである。②救急車の場合は、到着後の搬送先までの時間と搬送先の明示が曖昧。救急の場合は輪番のシステムで回っている様だが、時間だけを鑑みるときに、県境や市町を跨いでも受け入れ病院を確保すべきと考えます。
- ・県外であっても近況地域にあれば協力してほしい。
- ・分署機能の充実 ※問いの項目として、増やすを記載なしはアンケートにならない。
- ・職員・車輛の数は現状維持でよいと思いますが、署は統廃合を進めるべきだと思います。
- ・人口も若者も減って大変ですが、救急車を待っている時間は本当に長く感じて不安で辛いです。拡大できるようにしてほしいし、したいです。
- ・消防の組織や規模を縮小してしまうと、現場に来て貰う時間がかかり過ぎたりする心配の方が強いです。予算の都合上なのは理解できるものの、なんとかならないかと考えます。出来る限り維持出来ないかと。
- ・人口は減少するが高齢化は激増し、火事や救急搬送の要請は増加するのではと予想される。
- ・東部については、救急車や消防車が出動中はシャッターが閉まっておりその間に他の要請がある時は遠方からの配車となるため、時間がかかってしまうため困る。
- ・年々増加する出動件数に加え、職員数や予算を増やしたほうが良いと考える。
- ・拡充する必要がある。なぜ現状維持と縮小しかないのか。不足しているのだから増やすべきです。
- ・火災件数が多いようなのが気になります。
- ・現状維持が望ましいとは思いますが、それで消防職員等の負担が増えるのであれば縮小もせざるを得ないのでは

ないかと思う。

・増やした方がいいから。消防団に入る人の減少と負担が増えているということは聞いていますので、嫌がりながら無理しながら消防団を存続させるのならば、消防職員を増やしてきちんとしたエキスパートを増やしたほうがいいと思う。

・これから年齢が上がるにつき、将来はまだわからないから。

・縮小すると救急などが機能しなくなったり、災害時に救助が遅れたりするため、伊賀市に住むのが不安になるうえに、外から移住する人にとっても魅力がなくなるので、縮小はしない方がいいと思う。財源や人材の確保は、伊賀市が住みよい街になってこそ、移住する人が増えると思うので、移住する人が増えるまでは、国や三重県の援助や協力を得るとか、クラウドファンディングなどで寄付を積極的に得るとか知恵を絞って財源などを確保して、せめて現状維持には努めてほしい。

・有るものが無くなると不便であり不安であるが、老朽化の施設や設備の活用も課題が残る。

・急速に進む少子高齢化、財源不足を考慮すれば縮小はやむを得ないが、需要は増加しているので何とも言えない。

・救急要請のない時の職員の仕事内容がわからないから。

・南海、東南海地震やこれから起こりうる災害の規模等を考えるとどうなのでしょう。

・山田地区は現状で良いと考える。他所はわからない。

・現在すでに縮小された規模では不十分と感じているから。

・職員人数を充実させ、職務のローテーションを円滑にして欲しい。

・規模については正直わからないが、組織構成は再編の余地があるように思います。

・毎日ひっきりなしに救急車のサイレンを聞きます。隊員の方も休む間もなく出勤されているのでは？と思ったりします。一秒でも早く病院へ搬送できるように、救急隊員さんの人数も増え、救急車の台数も増えたら良いかなと思います。

・現場職員を増やした方がいいと思う。

・支所に勤務している人が少ないと思う。

・現在まで火事や事故でお世話になったことはないが、今後利用する機会があった時に不自由なく利用したいから。

・現状では、救急が、間に合っていないと思う。

・過疎地などでも人が住んでいるし、高齢化も進んでいて 救急の要望は増えると思うし、火災も心配。

・拡充すべき。30代より下の世代は、興味の無いことは出来ない・しない方が多く、地域防災は機能しないようになっていくと思うため、消防本部は拡充すべき。

・消防車や救急車は走っているのは見るが、家から消防署が離れているし、知り合いもいないので全く知りません。

・職員さんが大変そうなのでもっと充実した方が良いと思います。

・もっと充実した方が良い。

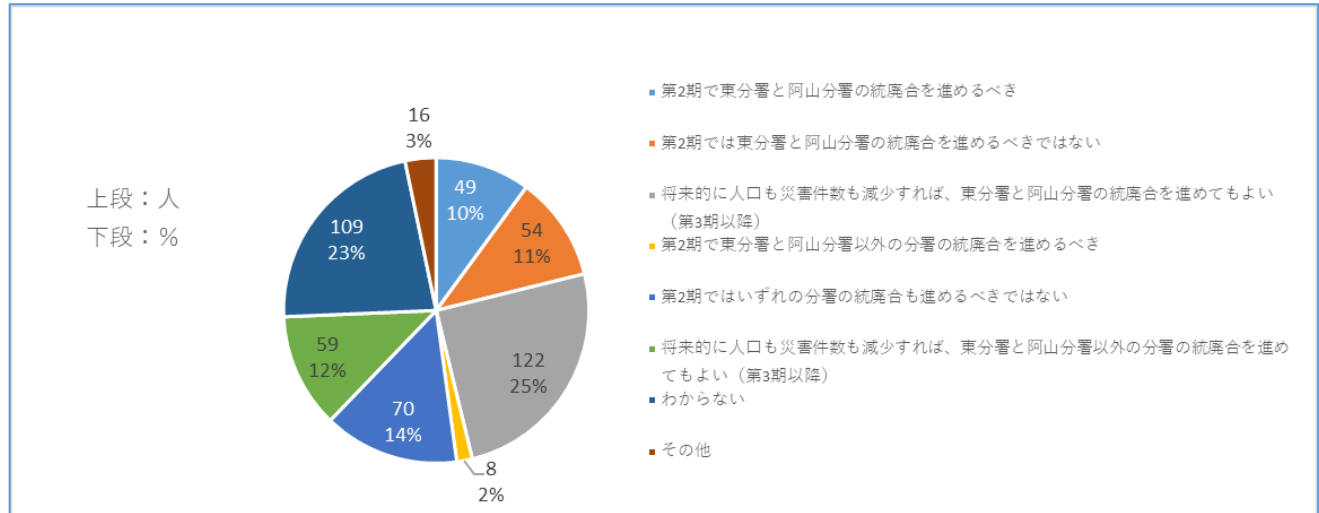
・消防団の負担軽減と人員削減をし、本職の消防士・救急隊員の予算・人員を増やして規模を拡大して欲しい。

・高齢者が増える中で消防職員もそれは避けられずまた救急搬送が増える中で今の現状を維持するのは今後中長期的に無理がある。奈良県広域消防みたいに市町村単位ではなく県単位や地域単位など広域的なまとまりも必要と思う。縮小や統廃合は管轄区域を広域化し職員配置を縮小すれば職員が受け持つ市民の数が増え、また対応にも支障が出かねないと思う。

- ・拡大したほうがいい。高齢化社会は進み続けると思うので火災は増えるだろうし、年寄りの救急搬送も増加し続けると思うから
- ・人手不足だと思う
- ・現在の伊賀市は今のところ大規模災害が発生していないように思うので規模については適正感どうかわかりません。
- ・単純に人数を減らすのであれば、消防団の行事を減らして欲しい。理由は准公務員で他の仕事があるのに人数だけ減らしたら負担がふえる。出来たら操法訓練も希望する人のみにして欲しい。理由、本当の火事の現場で消防団が行う事がない事ばかり。また緊急時に訓練の様な動作を気にしている人は居ないと思う。それなら小型ポンプの使い方を毎年全団員で覚えるなどの方が意味があると思います。火事などが起こった時の訓練などの行事以外無くすなら縮小してもいいと思います。
- ・現場の方々かどのように感じているかではないでしょうか。事務などはまとめれるものはまとめますが、消防団員の人は各消防署にいなければいけないと思いますので、どれくらい必要なかは私にはわかりません。
- ・分署の数を多くして少子高齢化のため地域の消防団を無くす。
- ・市民としては充実している方がありがたいが、人口減少、財政難等を考えるとどうすべきかわからない。
- ・いざという時に職員さんの人数や、消防車?救急車の台数が足りないのは困るが、現場の方々か今の状態で大丈夫と思われているのであれば維持していただきたい。
- ・現状維持どころか増強が必要になる。理由としては、伊賀市の消防は名阪国道を管轄し、今後名阪名神連絡道路の建設を踏まえると今以上に交通量の増加が見込まれる。さらに今後の高齢化社会による救急の逼迫性や救助の高度化、大規模災害に対応しなければならない。また他県では日本財団が主となり、建設会社などとタイアップして災害時の重機講習会を実施していることも踏まえて、もっと人材の確保に努めるべきだと思う
- ・イメージができず、はっきりと答えられない。しかし、これから予想のつかない災害、気象異常が起こる可能性は高くなっていると思うので、消防の方々にお世話になることは必然になると思う。どちらも、起こる前に取り組めること、恐怖を煽るより、こんなことを日常的に気をつけてくださいねーと、発信を増やしていくとか、そんなふうにして、私たち市民が受け身だけの姿勢でいないように、取り組むのも良いかと感じます。

問7 消防署（分署）の統廃合について

『伊賀市公共施設最適化計画』では、伊賀地区を管轄する“東分署”と阿山地区を管轄する“阿山分署”の複合化（統廃合）が記載されています。消防署（分署）の統廃合に対するあなたのお考えを、次の中から1つ選んでください。



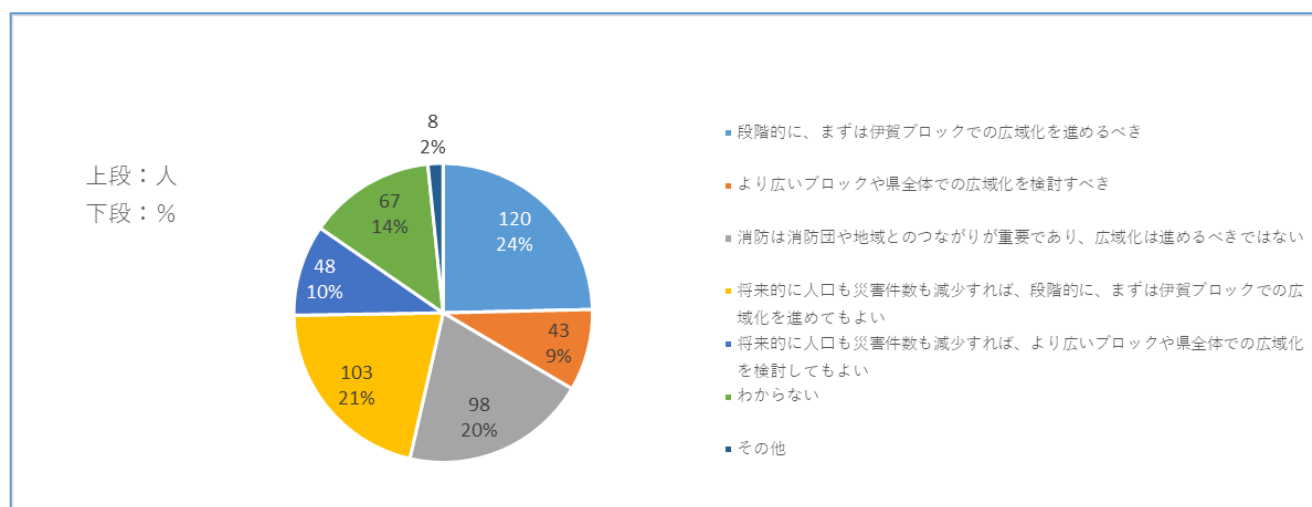
【その他】

- ・統廃合により、現場到着時間がさらに伸びることになる。管轄面積が広い故の方策として分署規模を縮小して出張所とし、現行より配置職員数を減らしてでも庁舎は残すべきである。
- ・災害件数が減少したタイミングで統廃合を進めたらいいと思うが、このアンケートの資料では現状が分からない。
- ・統廃合は第2期も今後も進めるべきでない。
- ・人口や災害の件数が減少すれば、ではなく、具体的に、他の地域とエリアの広さ、発生割合などから、全体的に平均化できるような数値設定を行い、その上で、この数値になったら統合する、といったことをしなければ、いつまでたっても統合をすとしても進められないと思う。
- ・将来的に人口も災害件数も減少すれば、すべての分署の統廃合を検討すべきと思います。
- ・分署の数を減らして、地域防災の維持ができると思えないから。
- ・隣接自治体等を視野に入れた道はないのかなと思います。
- ・統廃合は必要なのかもしれないが、人の少ないところで、高齢化も進んだ中、公共の機関がなくなっていくことは、さらなる人口の減少や、住んでいる人の安心安全に不安をもたらすと思うので、できる限りは存続させることが公共の施設の役割だと思う。消防署も、役場も統合してしまうことは不安でしかない。
- ・東分署を（いがまち）分署変更して阿山分署を残す。
- ・統廃合は必要だと思うが、担当エリア増大による出勤時間増加、到着～搬送時間増加が懸念される。
- ・その時点での災害状況を勘案して決める方が良いと思います。
- ・効率化されるべきではあるが、予算や人員の削減はされるべきではない。統廃合が両方を満たしているのであれば、統廃合に賛成。
- ・縮小を前提にではなく対応出来るのかを前提にして統廃合を考えるべき。
- ・減らすべきではない。
- ・年寄りが増えていく一方なのに統廃合に踏み切ったら絶対に救急や災害などで間に合わなくなることが増える。

・大切なのは建物の耐震性と消防車と救急車が現場へ早く到着できることなので、全て統合すればよいということでもないような気がします。

問8 消防の広域化について

『三重県消防広域化推進計画』には県が示す段階的（3段階）な消防広域化の案が示されています。消防の諸課題を解消するには、広域化が有効な手段であるとして、国や県が推進しようとしているものです。消防の広域化に対するあなたのお考えを、次の中から1つ選んでください。

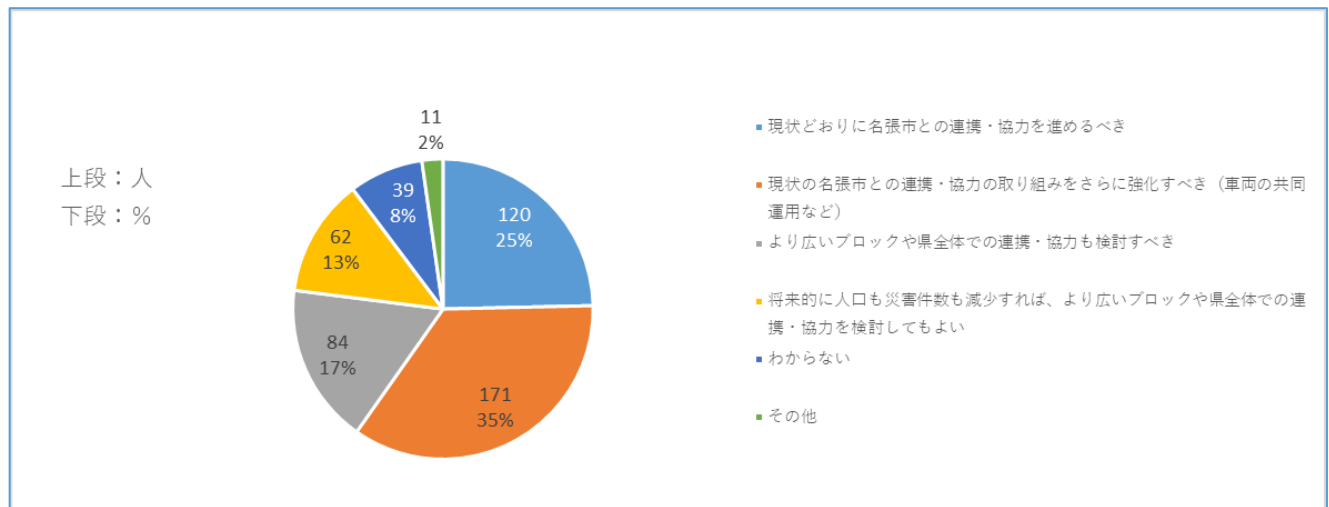


【その他】

- ・ 縮小が前提の選択肢しかないのが意味不明。
- ・ 広域化・広域連携を進めることと、伊賀ブロックでの統廃合や消防団活動の縮小は切り離して考えてもらいたい。少子化で団に入る人は少なくなってきているので、人員縮小は仕方ないことかもしれないが、鎮火後の処理などは消防団が行っているのだし、旧町村単位で融通が付くのであれば良いが消防署・消防団共に縮小はやめていただきたい。
- ・ 広域化の障害について無知なので何も言えませんが、漠然と問7の回答と同様のことを思います。
- ・ 伊賀は一つの考え方で。
- ・ 消防団の負担軽減・人員削減につながるのであれば、予算・人員を増やしてでも広域化を進めるべき。
- ・ 伊賀の立地がほか地域より閉鎖的なのに広域化しても伊賀市民のメリットが少ないと思う。
- ・ 広域化を進める進めないよりも将来的に財源不足が見込まれているのであればその財源不足をどのようにするのかの方が気になります。
- ・ 人口減少、特に消防団に入るような若者が著しく減少している山間部においては、初期消火などに不安があるため闇雲に広域化を進めてほしくないと思います。また資料を見る限り職員や台数は全国平均より劣っていても、到着時間が遅いようですので、広域化するとますます到着が遅れるのではないかという懸念があります。

問9 消防の連携・協力について

消防の広域化が困難な地域でも、消防力の維持・強化を図ることを目的とした、消防の連携・協力の取り組みについて、あなたのお考えを、次の中から1つ選んでください。



【その他】

- ・名張市は車両台数が少ないため、名張市への出動の回数の機会が多くなります。そうなったときに、本来ならばすぐに到着できる距離なのに名張市へ行っていたのが原因で緊急車両の到着が遅くなってしまいうのは伊賀市の住民サービスの低下につながっていると思います。
- ・車が無いため名張市民病院に運ばれても後がどうにもならない。帰る手段ないと入院してもケアできない。
- ・指令と予防業務はより広いブロックや県全体での連携・協力を検討すべき。
- ・コンパクトシティでは中心から離れるほど不便で良いと考えるのではないのか。人口減少は確実であるため、全て維持ではなく、将来像からの取捨選択を誤らないでほしい。
- ・連携を強化するうえで、両市の給与体系の摺合せが必要。簡単にはいかない。不満が出る。名張の方が給与が高いと思う。伊賀市が名張の給与体系に合わせた後に統合の話を進める。
- ・伊賀市から遠い為、名張市との連携は止めて欲しい。
- ・阿山やいがまちで統廃合を考えるなら亀山や滋賀京都奈良等との連携も考えていくべきだとは思いますが、お互いに過疎が進んでいるので、助け合えるのかはわからない。
- ・現状から出発するのではなく伊賀で一つの消防組織とすべきである。
- ・災害対応力と人員に問題がなければ、他府県の隣接自治体とも連携を検討しても良いと思う。
- ・市民よりも現場で働く方々にアンケートをとるのが一番だと思います。一番仕事内容や現状がわかっていますので。連携、協力が必要であるならばそのまま続けられればいいですし、不要と感ずるのであれば続けなくていいと思います。
- ・三重県内に関わらず県外近隣市町と連携協力しあえるよう協定したらいいと思います。

IV. 自由記述（問 10） ※主なもののみ掲載

- ・伊賀市広報などで、市民に向けて事例を示して予防に繋がるなど、もっと表だってのご活動が市民の安全によりつながると思います。”
- ・消防署は火災と救急車の仕事が大半のように思うが、その他の活動内容がよく分からない。良くわかるようなニュース、情報発信をして欲しい。
- ・日頃の活動に感謝いたしております。私のような老人には何かにつけてお世話になっています。是非、現状維持を要望します。
- ・一人住まいの老人宅が多くあり、出火状態も増え、昔のようとなり近所の付き合いも減っている。
- ・消火栓の位置、ホース格納庫の位置をもう少し住民に周知する必要があるのではないかと思います。
- ・各地区の集合所にAEDの配布を検討してはどうですか？講習の実施。
- ・2、3年前の家屋の火災は、早朝で驚いたが、建物の混んでいる場所にもかかわらず、類焼がなくて安堵しました。万一のことを思うと、ぞっとしました。
- ・①南分署は、国道165号、422号、県道美杉青山線、白山青山線、川上ダム、桐ヶ丘団地、比自岐・神戸・きじが台のエリアをカバーするため、機能を強化すること。②南消防署は水害、台風時に救急車・消防車を青山保健センターに移動している。この移設、土地を分署として移転計画すべき。出動の位置としても、人口集中地区の桐ヶ丘、他に便利であり、現状より改善される。③名張市との連携とこれから広域化を考えれば、南消防署の役割は大きい。④消防署のあり方に対する市の広報、行政チャンネル、パブリックコメント、自治協に対する消防長をトップとした市民への説明責任がないと思われる。
- ・消防の人数が減りすぎると、災害時の対応するべき人材不足が起きる。消防団やOBなど組織化して、万に一つの災害に人員を有効に使う、組織が必要。
- ・消防署は現状維持で問題無いと考えます。特に不満はありません。問題は消防団のほうです。出初式、夏季訓練、年末夜警は無駄ではありませんか？特に操法は団員が基本的な操作を覚えることが目的のはず。ですが大会優勝の為、操作と関係無いシンクロ練習、膨大な練習時間…。一部の団員のみ練度が比較的上昇しますが、他の団員はどうでしょうか？入団から5年以上経過してなおポンプの操作もできない、さらには自分の所属している班の名前もわからない団員もいます。本当に大切な事は何か？形骸化や本末転倒になっていることは廃止すべきではないでしょうか。
- ・上野・西柘植・阿保へ署機能を集約すべきと思います。
- ・救急車をお願いした時には、大変お世話になり有り難うございました。痛みで目を開けていられない私にもうすぐ着きますよって今どの辺にいるかを話しながら病院まで運んでくださりとても感謝しております。この体験から縮小や人数を減らす事は、忙しさに紛れ病状を見落としたりこれぐらいという気持ちになりがちになるのではないかと不安を感じます。看護師として働いていた頃、忙しいと目の前の仕事をこなす事で一杯になり余裕がなくなっていたのでこのままでも大変だと思いますが、頑張っって欲しいと思います。
- ・消防の充実は望むところだが、人口減少、財源不足では、多くを望めない。火を出さないなどの自助努力に努めたい。しかし、伊賀は野焼きや、タバコの投げ捨てが多い。住民の火災予防の啓発も重要かと思う。
- ・毎日お疲れ様です。あまり、身近な存在ではないですが、感謝の気持ちが大きいです。緑ヶ丘のグ्यूートラの前の消防署は子供を連れてよく見に行きます。外の声も大切ですが、中の消されている声の方が、私は必要で大切だと思います。
- ・高齢者に分かりやすい防災知識、訓練等を指導してほしい。
- ・車社会なのは理解するが運転できないひとはどうすればいいのでしょうか？公共交通機関充実含め真剣に考

えてほしい。

・消防本部とは異なるかもですが、NHK みえでドローンを使って人手の少ない地域にほしい食品を届けることをやっていたのを観ました。消防団員は必要ですが、いざやるには考えてしまうと、消防も機械の手がうまく入る時代が来るようであればと思いました。安心して暮らせる消防をつくれるようにしたいです。

・これからは大きな災害が発生することが予想されるので、消防の広域化がいままで以上に求められる。

・伊賀市単独では規模が小さいので、真っ先に人件費の抑制や更新車両の時期延長といった財政面で不利である。指令業務を共同運用するのなら段階的かつできるだけ早いタイミングで名張市と合併し消防本部の規模を拡大することを切望する。

・消防士さん達は日頃から人命救助に努力してくださっていることに感謝していますが、縮小などで広域化されることについては消防士さん達に負担が大きいのと思います。なので広域化には無理があるので、行政の考えだけで進めないで欲しい。

・何で縮小前提なのかがわからない。

・消防設備の不備がないかビルや店舗、工場などの立ち入り検査をもっと行っていただきたいと思います。

・消防団員の人数を減らしては。

・住民の生活安全に直面していただいていることを感謝します。現行人員での活動はかなり負担があると思います。いつ起こるかかわからない災害がある以上、24時間365日消防職員としての自覚を持ち非番もゆっくり休まず高ストレスであると感じております。伊賀市となり広くなったことで活動範囲もおのずと広がります。広域になればますます活動範囲が増え覚えることが増加します。人員を増やしてもらいスキルアップする時間的余裕を確保していただき休暇取得でストレス発散できるようにしてもらいたいです。日ごろの活動ありがとうございます。

・類似団体と比べると火災件数が多いような気がするのですがR3だけの事でしょうか？啓発などはどうしていますか？比較的工場が多いと思うのですが化学車がないのはそれでいいのですか？先日、名阪の亀山側の事故に名張市の救急車が出動されているのを見かけました。連携・協力とのことで、同様のかなり遠距離な出動を伊賀市からも行っていることと思います。おつかれさまです。協力は心強いのですが、基本的な出動範囲をあまり広げてしまうと時間の面では不安を感じます。

・コロナ禍の中では救急搬送先の病院を探すこともさらに困難になっており、救急隊員の方の負担も大変厳しい状況であると思います。消防の広域化で少しでも職員の方の負担が軽減されたら良いと思います。

・消防団との連携について、別組織という理解はできるが、実務は消防本部の積極的な連携が必要と思う。消防団の解散した地区もあると聞いているが、その場合の体制など、消防団内での連携で乗り切っているようだが、全部が解散したらどうなるかという危機感を地域に伝えていないのではないかと。例えば初期消化の後や点検、訓練を地域の自主防災組織がしなければならぬのかなど。どこの地区でも団員確保に苦労している。消防団適正化計画についてもその辺が何も記載されていない。消防本部が事務局をしていたのではないのでしょうか。もう少し具体性が必要だった。分団長も会議に入っていたのも理解していますが。

・市域内の規模は現状維持とし、職員と車両を上野・西柘植・阿保へ集約すべきと思います。

・敷地が広大であるため、遠方地は諦めるべき。私も諦めている。防災能力の低下については、到達予想時間を地図で円範囲で5分とか30分とか示し、危機を煽ることでより中心へ住まいを移してもらうなど、検討してもらう必要があると考えます。それでも時間がかかるなど不満心配があるなら自身を変える努力をして他市へ行けばいいだけである。声のでかい奴の言いなりにならず、これからも頑張ってください。

・小規模の分署は統廃合を進めるべき考えますが、消防署機能は充実させ車両や職員は削減すべきではない。

- ・昼夜かわかわらず、日々の活動に感謝しています。1点、保育園や幼稚園での教育活動を定期的に行って頂きたく思います。大変な業務も多いと思いますが、頑張ってください。
- ・少ない要員でよくやっていただいている。また消防団員も少なくなっていることから、市職員の消防団員化も検討してみてもどうか。
- ・主要道路の道路整備 片側2車線化 をすれば、広域対応がより可能になるのではないかと！時間が勝負の仕事だと思うので、範囲を広げるならば、早く現地に行けるような対応も必要と考える。
- ・消防団員の高齢化により、地域支援を含めて消防体制の見直しが必要です。
- ・救急搬送時、隣の市への搬送の日があるというのは搬送時間を考えると不安要素が強いと感じます。居住の市で対応できる様になって欲しいです。
- ・職員は現業職で事務職より、低い地位と給与になっている。事務職は誰でもなれるだろう。職員のモチベーション上げるためには、給与体系を一元化すべきだと思います。消防団はいつれ、衰退し消滅していくと考える。再任用職員、OBの方の活躍に期待します。
- ・伊賀市の本部に救急車を増やす事を切に願っています。
- ・165 沿いの青山地区の消防車庫シャッターが閉まっている時は、なぜですか？
- ・何度か救急でお世話になりました。すぐに来て対応して頂き、本当に安心できました。日々訓練されている姿もお見かけします。講習などでお話を聞く機会もありましたが、高い意識を持って市民の為に頑張ってください。とても感謝しています。ありがとうございます。実際に利用させて頂き、救急車が来たからと、すぐに病院へ迎える訳ではないことを実感しました。コロナ禍で今まで以上に仕事内容も救急要請も増える中で、私達自身も本当に必要な要請かどうか、しっかり考えなければいけないと思っています。資料の中でも救急も火災も他の地域と比べ多いなと思いました。職員数や車数は他の地域より、やや多めに感じましたが、出勤数が多い分職員さんの負担も大きいかなと思います。普段あまり考えたことがなかったのですが、このアンケートでそういった現状を知ることができました。自分達の暮らしに関わることなので、もっと関心を寄せて考えていきたいと思っています。本当にいつもありがとうございます。
- ・伊賀市から遠い為、名張市との連携は止めて欲しい。
- ・大規模地震が想定される中で消防職員の果たす役割が重要となります。特に高齢化社会が進み救助も求める数が人口減に関わらず今後も件数の増加が予想されます。身近な兼業の消防団員の確保が困難な社会の中で仕事として防災を担う人員確保配置をお願いします。
- ・消防署の仕事は危険を伴うものや専門的な知識や技能が必要なことが多いと思いますので、一般の人はなかなか関わりにくいという印象を持っていますが、身近に消防署があることで、通りがかりに見ただけでも視覚的、感覚的に学んでいることもあると思うので、統廃合は反対です。三重県は東南海地震のが起こった場合には大きな災害につながることから、他の県の人たちよりも少し危機感はあるとは思いますが、伊賀市は山に囲まれているせいか、いまひとつ危機感がないように思います。それぞれの学校や職場で避難訓練などを行っているとは思いますが、もう少し一般的な場所、例えばスーパーマーケットなどで消防の知識を得るような催しがあったら、消防や救急を身近に感じられ、興味を持つ人も増えるのではないかなと思います。催しなんてめんどくさいとは思いますが、多くの人に興味や親しみを持ってもらわないと、消防署の困難も理解してもらいにくいと思います。
- ・定年を延長してもよい。
- ・数年前なんですけど 救急車を利用したとき、受け入れ先の病院がなかなか決まらず 津の方の病院まで行きました。なるべく近辺の病院に搬送していただければ… (現在の状況は、わかりませんが) ありがたかった

です。

・コロナ禍の中、現場で働かれている署員の方には感謝しかありません。ありがとうございます。近くに消防署がなくなることで保育所や小学校からの見学が困難になることはつらいですが、財政を考えるとそんなことも言ってもらえないかなと思う。今後も見学の機会がなくなることはないようバスが必要であれば市がきちんと用意してあげてほしい。消防署がこんな状況なんて知らなかった。ハガキが来なかったら知ることもなかったし興味もなかったと思うので市政を知るよききっかけになった。消防署が減るのは苦渋の決断だけど、同じ市民でも署が遠いから助かる命も助からなくなるなんてすごかつらいけど、救急車の利用が少しでも減るよう市として健康支援について力を入れていかなければならないと思う。また、少しでも救急車の利用を減らせるよう自分自身でも努力していきたい。地域の消防団員の減少により自治防災に取り組んでいかないといけないという話も聞いた。市民減に伴い、色々なことが変わってきているのはわかる。でも、同じ税金を払っているのに市民サービスの低下は本当につらい。生まれ育った伊賀が好きで職場が伊賀市外にあるにも関わらず伊賀に住み続けているのに、市街地ばかり優先され、旧郡部が軽視されていることがひしひしと感じています。

・消防署だけでなく、行政は町中が中心で、郡部地域のことを本当に考えてくれているのだろうか、と考えてします。市町村合併以来、郡部へのサービスが格段に低下した。この上、生命に関わる安全までも人口減少や効率化の名目のもとに切り捨てられていくのだろうか。

・救急車に乗ってから、出発まで受け入れ病院との連絡時間が長いので、体調と精神的に不安にかられる。

・119に電話した時に質問が多くて時間がかかりました。一刻も早い対応をお願いしたい為パニックになっている市民でも簡潔に対応できるように質問していただくと助かります。

・少子化で人が少なくなるから広域化する、合併する。これで良いのでしょうか。火事、事故の現場から遠くなったり、合併前だったら間に合ったとか言うことにならないか。少子化より、なり手の募集をもっとやるべきではないのか。もっと魅力ある仕事にすべきではないのか。地方交付税交付金や地方税も昭和より平成の方が増えているはずなのに。効率ばかりでは計れない仕事だと思う。新型コロナ等で人員不足は顕著になっておめおめ休憩もとれないとも聞きます。役所はもっと人員募集に努力するべきではないのか。現場の作業員さん達には本当に頭が下がります。私はこう思いました。

・AEDが何処に設置されているかわからない。設置場所のパンフレットを発行して欲しい。もっと地域住民との交流を図り、災害に対する備えの充実を図って欲しい。

・現在の消防職員の数は足りていないと感じます。ある程度、適正化は必要と思いますが、その為に職員1人にかかる負担が大きくなる様な事では、ますます維持が出来なくなって行くような気がします。また、現在分署で出勤があった場合、無人になっている時が見受けられます。これについては地域の防災拠点として論外であると感じます。適正化に寄り、分署の統廃合がなされた場合、管轄する範囲が増え有事が重なった場合到底対応出来るとは思いません。

・現状で大丈夫だと思います。とても大変なお仕事。身体、大切にしてください。

・消防職員の充実。消防職員の体力、メンタルケア。

・阿山分署と東分署の統合も必要ですが、島ヶ原分署は必要ですか、旧島ヶ原村の人口及び各署からの距離を考えると、この分署の統廃合を考えるべきです。例えば、西分署と島ヶ原分署を統合すべきです。これについては、合併前の市町村区域を重んじるからではないでしょうか。この考え方から脱皮しない限り今回の計画を進める事が出来ないと思います。すべての市民が、平等に行政サービスを受けられるようにするのがあなた方の仕事だと思います。

・桐ヶ丘に住み出して37年ですがまだ一度も消防署のご厄介になった事はありません。それで今何が課題で

これからどう進めれば良いのか実感としてあまり分かりません。ただ資料の中で救急車の到着時間が全国・三重県の平均 8 分台に対し伊賀は 11 分前後になっています。これは問題で、基本的には体制・人員をもっと強化すべきと思います。

- ・広域化は反対ではないが、サービスの質が低下しないように統廃合を行ってください。
- ・救急・火災の出動が大変多いと思うので、勤務環境を改善し、市民の健康と命を守って頂けたら有難いです。毎日お疲れさまです。
- ・今後災害が減少すると思われないので、それに対応した人員、機材と共に市民に対して今以上に防災意識の啓蒙活動に励んで頂きたいです。
- ・柘植地区など高齢化が進み、老人のみの一人世帯、老夫婦の世帯が大半を占めています。病気や怪我の際は頼るものも居ないのが実状です。最低限、救急体制が現状維持できるよう、お願いします。
- ・高齢者の一人暮らしや高齢者だけの家庭が多い地域では救急車を要請することが頻繁にあります。その都度適切に対応してくださる署員の方々に頭が下がります。今後も高齢者多数の地域への配慮よろしく願いいたします。
- ・都会とは違い、山間部では、火事が起きた時大変だと思う。駆けつけに、時間がかかるので、広域化すると、大変な事になります。
- ・いつも地域の安全安心を守ってもらってありがとうございます。伊賀市に毎日住んでいる人のための施設である消防署や保育所、役所は維持できないのに、観光に数日来る人のための施設に、力を入れていることに疑問を感じます。伊賀市に住んでいる人に優しい住みよい安心して長く住めるまちになっていくことを望んでいます。
- ・講習など平日だけでなく、土日でも開催してほしいです。
- ・消防職員の方の、働きやすいよう、活動しやすいようにする事が一番です。一市民として、できる限り協力したいと思っています。毎日、大変でしょうが体調に気をつけて頑張ってください。
- ・現役の消防団員として思うのは、分団幹部と職員の連携不足を感じる。R4. 10. 13 西大手町の建物火災では、再燃通報を防ぐ事が出来なかったし、R5. 01. 14 の丸の内ビルの火災では、出火元から東側木造家屋への延焼を防げなかった。前者では、団の撤収前に再度放水の指示や、現場検証後まで待機など、お互いに気兼ねなく相談出来る関係であれば十分対応できたと思う。後者では、職員が出火元北側の階段から二階へ侵入中に、隣接家屋との間への延焼防止の放水が十分であれば、延焼を防げた可能性があるのではとってしまう。団は放水準備が完了していたが、本部テント付近で待機していた。北側の道が狭く放水ポジションをとると、ホースが重なる、職員の活動を妨げる可能性がある等の気遣いもあったと思うが、延焼してしまうよりは遥かによい。お家の方が走りながら「二階が燃えている」と叫ぶ、悲鳴の様な呼び声が忘れない。何か出来る事はなかったのかとってしまう。指揮隊と分団幹部の現場での連携、反省点、改善点の共有は今後進めるべき課題の様に思う。
- ・各自の健康管理や感染管理が基本ですが、行政よりも呼びかけや指導がまだまだ必要と考えます。緊急時の救急要請についても各市民に周知が出来ていない、適材適所かつ有効利用を考えてもらいたいです。
- ・伊賀市名張市合併を消防組織がリードすべく組織特に人事しっかりして欲しい。期待しています。
- ・いろいろご苦労はあると思うが、人口減少などの実情に合わせて変更していかざるを得ないと考える。他の地域と比較して、火災数と職員数が非常に多いのはなぜなのかと不思議に思う。田で草を燃やして通報されることが増えて、農業がしづらくなっているが、誤報も増えているのかもしれない。本来の消防活動を妨げることなく、本当に必要なときお世話になれるように、市民への啓蒙も重要になってきていると感じる。

・いつも上野市民の安全の為にありがとうございます。このアンケート調査がくるまでは消防体制の縮小化が話し合われているとは知らなかったです。人員の事もありますが私としては不安時にいち早くすぐに駆け付けて下さる体制であってほしいです。

・日頃消防吏員は市民の生命財産を守られており、感謝している。市の財政運営については、消防をはじめ、教育、子育て支援など、次世代が住みたいと思う施策に財源を注力していただき、現場職員のモチベーション維持や、待遇、地位向上に就てめていただきたい

・現状に合わせて縮小は必要かと思います。

・施設、設備等と広域化は分けて考えるべき。

・伊賀市消防本部は地域の消防団とも連携しよくやってくれています。本日1/14の丸の内での火災においても迅速的確に対応され、また、挨拶や説明も丁寧で素晴らしいと思いました。今後は県内や近隣地域の消防本部とも連携を密にドローン等の新兵器も駆使し人員減に対応していってほしい。

・現状維持でよいと思いますが、今後高齢化になっていきますので、救急車の需要が高まるので、充実が必要です。

・消防は地域と共にあるべきです。消防予算を減らすための統廃合はすべきでないと考えます。

・阿山島ヶ原青山地区の施設の古さに驚きました。いずれも昭和の建物が利用されてるとは。(資料2) 統合することで合理的で最新の設備と建物になるのなら統合も賛成です。しかし、ただ財政難のための統合なら反対です。こういう地域は高齢化が進んでおり、消防団も存続できません。地元に残った善意ある若者の負担が増すばかりです。こういう地域こそ行政の力で手厚くフォローしてほしいものです。大規模災害に備える必要性もわかりますが、まずは毎日を安心して暮らせる伊賀地域であってほしいです。

・道路の狭い場所が多いので、その辺りの出勤活動を今まで以上に考えるないといけない。

・救急隊員の教育が必要、土足で集会所に入るのを見ました。大阪の実家で救急車を呼んだことがあります、シートを敷き靴のまま上がりますと声をかけ搬送作業をされたのを見たことがあります。

・長男のみ、協力金または入団をしいられる現状の消防団制度には強い違和感を感じるため、本職の消防士・救急隊員の増員をしてほしい。不平等な制度は、田舎からの生産年齢人口の流出と田舎への移住・Uターン就職の壁になり、過疎地域・耕作放棄地・放置林、空家を増やす要因になっていると思う。男女・昼夜関係なく外に働きにでる時代だからこそ、消防団が不要、または、ほとんど必要ないくらい本職の消防士・救急隊員を増員・予算拡充して欲しい。

・気候変動や様々な事件事故などの多様化するニーズの中ますます消防署の担いが必要になってくると思います。より良い活動を期待すると共に充実した消防署と人数配置を希望致します。

・火災出動が多い。火災予防の呼び掛け強化をお願いします。

・すごい勢いで伊賀の人口が減少している、遠い将来のためにも消防の枠や、しがらみ、常識に囚われず市が危機感をもって本気で生き残れる方法を考えて導いてほしい。住宅が郊外にバラバラと点在していると人口減少で非効率になるのは明らか、地域によっては災害のリスクがそもそも高い。

・消防団に対して、消防署の協力をもっとして欲しい。

・国の方針が出ているので、広域化は避けられないと思います。

・高齢化が進む中人と人の繋がり方が薄れがち、もっと、地域密着性を重視して欲しいと思います。

・日頃から、地域防災や救急搬送に対応頂き、有り難うございます。消防署の業務は即、市民の生命、財産の存続に直結する大変な業務です。幸いして、大地震や大災害は発生はしておりませんが、有事の際は頼りになって頂かなければならない行政機関だと思っています。市の財政状態や人口減少等に伴う、消防署の統廃合の

問題は避けて通れません。警察と消防署が暇をもて余す社会は安心、安全の理想像ですが、現実には程遠いものだと思います。市民としては、消防署が統廃合され、救急車や消防車の到着が遅くなる事への危惧と不安感は今後、高齢者の一人暮らしが増えるに連れて比例的に増加する事でしょう。また、救急車到着後の搬送先の病院の決定に時間を要するようですが、こちらでも時短出来るならば改善を御願いしたいです。日頃から、市民に対して救急車の利用に関して啓蒙活動をして頂いておりますが、今後とも継続して頂き、市民参加の防災訓練等でも適正な救急車の利用を啓蒙して頂きたいと思っております。火災に関しても、野焼きや火の付けっ放し等への注意喚起を継続して行って頂きたいと思っております。それから、火災に関しては、新聞やテレビでは火災が発生しましたと現象発表に留まり、何が原因で何に注意すればよいのかが伝わって来ません。火災の原因は調査後でなければ判明しない為、市民に伝える事は困難かも知れません。しかし、原因を究明し発表することにより、私は大丈夫、自分は関係ないと思う人が一人でも他人事じゃない、自分も気を付けよう意識を変えてくれるのではないのでしょうか。消防業務に携わる方は、常に危機意識をもち、また気を休める事も出来ない様な状態で日々、過ごされていると拝察いたします。日々、危険と隣り合わせの激務でしょうが、皆さんのお陰で私達の安心、安全が守られていると感謝致しております。今後共、お身体に留意され、精進されますことを願っております。

・人口減少にともない規模縮小となる考えでは、災害時に初期衝動に大きく影響が出るのではないかと心配します。災害は、広範囲で起きるものですよ？。100m 範囲だけ災害なんてありえないですよ？規模縮小で広範囲で起きる災害をカバーするのは到底無理だと私の頭でも想像できます。机上の空論だけではないと思っておりますが、資料をみて縮小縮小と歌ってるのを聞くと安直な考えで決めてるとしか思えないです。適正化も、もっと違う面をする必要があるのではないのでしょうか？

・市民の消防・救急の理解を深める機会があればくだらない通報が減ってくれると信じたい
・自治会の消防団は勤め人ばかりでいざと言う時対処できない。消防署は組織と連携について検討する必要がある。今後は複雑になり、面積が変わらなければ人、施設は急に変わらないのでは。

・いつも私達の生活を守っていただき、感謝しています。普段は何かが無ければ関わることの無い、少ない消防本部です。とても、とてもお忙しいお仕事だとは思いますが、もう少し講習などを開催して欲しいです。親子で参加できるものがあれば嬉しいです。

・まず消防署で耐震度が弱い建物があることが気になりました。将来的に財源不足になることがわかっているのであれば財源不足分をどのようにしていくのかをきちんと考えていかないといけないと思います。今から考えているぐらいだと遅いかもしれないです。消防も救急もなくてはならない機関ですので、市民はそこに税金を多く使われる分には問題ないと思います。

・救急車で対応してもらえなかった時があったが、具体的にどこの病院へ行けばいいのか、応急処置や正確なことを教えて貰えず蝮に噛まれたのにも関わらず、病院に到着するまでに、時間がかかりかかり、入院が長引く事になった。正確な情報がほしい。もっと、誠実に対応してもらいたい。

・日頃は市民の為ありがとうございます。以前自宅近くで大きな火災がありました。消防車が到着後道路に有る消火栓の場所を隊員の方が分からず時間がかかり地域の方が場所を教えるといった事が有りました。中々難しいかも知れませんが、把握してくれていればと思いました。

・定年延長になり、高齢の職員についての現場配置や、職員採用、人事異動等を再編計画に盛り込む必要があるのではないかと思います。高齢化、災害の頻発且つ甚大か、特に南海トラフを中心とするプレート型大地震が、ここ 30 年以内に発生する確率が、高まる今、規模の縮小、エリアの広域化は、人災による、人命救助機会の損失を招く事になる。伊賀市の税金の使い方は、是正可能性な、所が、散見していると、思われるので、一

番大切な、人命を守る体制に、削減のメスを入れるのは、行政の安直な、浅はかな行動と、思う。議員の数を半減してほしい。または議員報酬を暫減して、財政補てんしてほしい。

- ・消防と警察は暇のほうが良いが、災害必ず起こる。備えは多少大きくても良い。
- ・地域境界の火事で、せっかく到着してもとなりの地域が火事の場合、黙ってみているのをよく見かけるがあれはなんとかすべきと思う。
- ・常日頃、消防業務は大変だと思います。救急出動だけでも、輪番病院によっては長距離の移動になり、疲弊になる要素と思われます。また、伊賀名張で統合すれば、旧青山町の現場に名張からの応援がもらえるほか、名張でも治田寄りの現場であれば、伊賀からの出動も可能だと思います。消防組織は連携が大切ですし、ただ異動が大規模になると職員さんへの負担になるのも考えるべきですが、少しでも効率よく職員の負担を減らしながら増強していく術を構築してもらいたいと思います。あと消防団にももっと年齢幅を上げたり、公務員を使えたりできるような取り組みがあれば良いと思います。
- ・消防団員の確保が難しくなってきましたので、消防署職員の充実強化をお願いします。
- ・伊賀、名張の連携を進めるのであれば、救助工作車、化学消防車の増車も必要。

※その他、消防に対する感謝のご意見も数多く寄せていただきました。ありがとうございます。